

国、自治体、JSCの動き		建築界・市民の動き
2006年		
3月18日	「明治神宮が神社本庁離脱直後に急浮上した外苑再開発計画。推定1兆円以上」週刊金曜日が報道	
2011年		
2月15日	ラグビーワールドカップ成功議連による国立競技場建て替え決議。初めて「新築」、「8万人」が出る	
3月25日	久米設計が国立霞ヶ丘競技場陸上競技場耐震改修基本計画を提出（サブトラックを地下に設置、設計・1年、工期・2年、工事費・777億円、うち地下工事に110億円）	
6月24日	スポーツ基本法公布	
12月13日	閣議において2020年第32回オリンピック競技大会・第16回パラリンピック競技大会の東京招致が了解される。	
2012年		
3月	スポーツ基本法に基づくスポーツ基本計画が策定され、これにより「オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会の招致・開催等を通じた国際交流・後見の推進」が掲げられる。	
3月6日	第1回有識者会議、議題1、国立競技場の将来構想、2、ワーキンググループの設置	
7月13日	第2回有識者会議、議題1、国立競技場の改築に向けた論点整理について、2、新国立競技場基本構想デザイン公募について	
7月20日	日本スポーツ振興センター（JSC）が新国立競技場国際デザイン競技の手続き開始公告を出す。	
11月15日	第3回有識者会議、議題1、新国立競技場基本構想国際デザイン競技の審査結果について、2、今後のプロセスについて	
11月16日	46応募作品の中からザハ・ハニド氏作品が最優秀賞と決まる。	
11月27日	JSCが近隣住民に対して「国立霞ヶ丘競技場建替え計画概要説明会」を開催	
12月4日	JSCが「神宮外苑地区地区計画」の企画提案書を東京都に提出	
2013年		
1月21日	都市計画原案の公告・縦覧（意見書提出期限2月12日）	
2月19日	東京都から各区（新宿・港・渋谷）へ意見照会	
2月22日	東京都が都市計画案の説明会を開催	
2月25日	都市計画案の公告・縦覧（3月11日まで）	
4月	各区から東京都への意見回答	
5月17日	東京都都市計画審議会が20mの高さ規制を75mに緩和する再開発促進地区計画を承認し都知事に答申	
6月17日	都市計画決定告示	
8月15日		榎文彦氏、日本建築家協会発行の雑誌に「新国立競技場案を神宮外苑の歴史的な文脈で考える」と題した論文を発表する。
9月7日	IOC総会で2020年オリンピックの東京開催が決まる。	
10月	財務省主計局より「国・地方とも財政改革が重要な課題であることに鑑み、簡素を旨とし、大会の開催に係る施設については、既存施設の活用を図ること」としたオリンピック・パラリンピック関係資料が発表される。	
10月11日		シンポジウム「新国立競技場案を神宮外苑の歴史的な文脈で考える」開催。この様子はインターネットで中継され、新聞各紙、TVニュースでも報道される。登壇者 榎 文彦（建築家）陣内 秀信（建築史家・法政大学教授）宮台 真司（社会学者・首都大学東京教授）大野 秀俊（建築家・東京大学大学院教授）
10月28日		神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会（手わたす会）設立
11月7日		榎文彦氏をはじめ建築家4名が文部科学省および東京都に「新国立競技場に関する要望書」を提出。発起人および賛同者に建築関係者100人が名前を連ねる
11月25日		手わたす会が内閣府、文部科学省、JSC、都知事に要望書・質問状および署名簿を提出。
11月25日		手わたす会が公開座談会「市民とともに考える新国立競技場の着地点」を開催。登壇者 松隈洋（建築史家、京都工芸繊維大学教授）藤本 昌也（建築家、日本建築士連合会名誉会長）日置 雅晴（弁護士、早稲田大学大学院教授）平良 敬一（建築評論家、「住宅建築」相談役）渡辺 邦夫（構造設計家、新国立競技場デザインコンクール応募者）森山 高至（建築エコノミスト）森 まゆみ（作家/神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会共同代表）
11月26日	第4回有識者会議開催	
11月28日	自民党無駄撲滅PTIにより新国立競技場に関するヒアリング実施（現国立競技場の耐震改修費用は700億円、コンペ条件の工事予算費用1300億円は日産スタジアム700億円を参照、屋根付きにすることで100～150億円のコスト増となるが年間12日程度のコンサート利用・4億8000万円の収入が考えられる）	
11月30日		手わたす会、第1回外苑ウォーク実施
12月13日		手わたす会、青柳文化庁長官に要望書を提出。
12月24日		手わたす会、JSC、国立競技場将来構想有識者会議、国際デザイン競技審査委員長宛に公開質問状を送付。
12月27日	自民党無駄撲滅PTIによる第2回目ヒアリング（工事予算の上限・1388億円、ランニングコストの赤字補填を行わないことを確認）	
2014年		
1月10日		手わたす会、都知事選立候補予定者に公開質問状を送付
1月14日		公開勉強会「みんなで学ぼう 新国立競技場のあり方」を開催 登壇者 森 まゆみ（作家/神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会共同代表）鈴木 知幸（元2016年東京オリンピック招致準備担当課長・順天堂大学客員教授 沖塩 莊一郎（日本ファンリテイナメント協会理事、東京理科大学名誉教授）森山 高至（建築エコノミスト）山本 想太郎（建築家、日本建築家協会デザイン部会長）
1月31日	JSCより12月24日公開質問に対する回答 安藤委員長からの返答はなし	
2月5日	衆議院予算委員会にて有田芳生議員が新国立競技場建設について質問 （ハニド氏に監修料として13億円支払うこと、競技場利用による年間収入50億円、維持管理約40億円、約4億円の赤字となる試算が示される）	
2月18日		公開勉強会「スポーツ施設としての新国立競技場を考えよう」を開催 登壇者 森 まゆみ（作家/神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会共同代表）後藤 健生（スポーツジャーナリスト）鈴木 知幸（元2016年東京オリンピック招致準備担当課長・順天堂大学客員教授）今川 憲英（外科医的建築家憲+TIS&Partners' 東京電機大学教授）
2月26日		手わたす会、JSCに再度質問状を送付。
3月3日		手わたす会、舛添都知事に計画見直しの要望書を提出。
3月14日	参議院予算委員会にて蓮舫議員が新国立競技場について質問 （現競技場の解体及び新競技場の建設費用計2000億円は国・都・JSCが分担するが現在協議中であり、その割合は未定であると久保公人文科省スポーツ青少年局長回答）	
3月15日		手わたす会、第2回外苑ウォーク実施

3月24日		公開勉強会「新国立競技場、このままでほんとにいいの？」を開催 登壇者 森 まゆみ（作家/神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会共同代表）松原 隆一郎（社会経済学者、東京大学教授）柳沢 厚（日本都市計画協会理事、C-まち計画室代表）横河 建（建築家、日本大学教授）今枝秀次郎+平山貴大（東京大学工学部建築学科3年）
3月27日		手わたす会、JOCにオリンピックムーブメント・アジェンダ21遵守の要望書を送付。
3月27日		平凡社より「新国立競技場、何が問題か オリンピックの17日間と神宮の杜100年」榎文彦編著出版
3月31日		手わたす会、トーマス・バッハIOC会長に新国立競技場をオリンピックムーブメント・アジェンダ21遵守の要望書を送付。
4月4日		岩波ブックレット「異議あり！新国立競技場」出版
4月5日		手わたす会、JSCによる現国立競技場解体工事入札に対し抗議文を送付
4月16日	東京都が2020年東京オリンピック環境アセスメント調査計画書に関する意見募集を行う	
4月23日		「新国立競技場、何が問題か」出版記念シンポジウムが開催される。 登壇者 榎 文彦（建築家）大野 秀俊（建築家、東京大学大学院教授）森 まゆみ（作家）陣内 秀信（建築史家、法政大学教授）
5月12日		シンポジウム「新国立競技場のもう一つの可能性」が開催される 登壇者 中沢 新一（人類学者、明治大学野生の科学研究所長）伊東 豊雄（建築家、RIBAゴールドメダル、プリツカー賞受賞者）森山 高至（建築エコノミスト）松隈 洋（建築史家、京都工芸繊維大学教授）/司会
5月15日	JSCより公開質問状の回答が届く/第43回 みなとスポーツフォーラム「2019年ラグビーワールドカップに向けて」JSC山崎本部長登壇し、競技場の説明を行う	
5月21日		舛添都知事にあて、国立競技場の解体中止と改修検討をもとめる要望書を送付
5月21日	衆院文部科学委員会で宮本岳志議員が質問し、異論に耳傾け民主的手続きの徹底をはかるよう求める。	
5月22日	東京都議会 日本共産党東京都議団 国立競技場解体中止の見解 記者会見	
5月23日		日本建築家協会が文部科学省・東京都・JSCに対し、国立競技場解体中止の要望書を提出する。
5月28日	JSC、新国立競技場の基本設計を発表、第5回有識者会議でこれを了承する	
5月28日	3月31日にIOCに向け送付した要望書の返信が届く	
5月28日	2020年東京五輪環境アセスメント評価委員会、五輪会場などに関する環境影響評価書を作成する際の留意点をまとめ、都環境局長に意見具申を行う。	
5月30日	JSCが新国立競技場基本構想国際デザイン競技報告書（競技概要・応募状況・審査概要・質疑）を発表	
5月31日		手わたす会、バッハIOC会長にあて、改めて要望書を送付する。/新スポーツ連盟シンポジウム 当会登壇者として参加
6月5日	渋谷区議会オリ・パラ特別委員会と新国立競技場周辺住民代表者との懇談会が開催される	
6月9日	JSCは競技場取り壊し業務入札が不落であったことを発表	
6月13日		外国人記者クラブにて競技場問題記者会見：登壇者・原科幸彦（千葉商科大学教授）、大野秀俊（東京大学新領域創成科学研究科教授）、エドワード鈴木（建築家）、森山高至（建築エコノミスト）、清水伸子（手わたす会）
6月15日		手わたす会、シンポジウム「神宮の森から新国立競技場を考える」を開催、登壇者・三上岳彦（首都大学東京名誉教授）、原科幸彦（千葉商科大学教授）、大澤明彦（東京工業大学助教授）
6月27日	IOC調整委員会のコーツ委員長らが準備状況視察および東京五輪組織委員会と協議のため6月25日に訪日、27日に記者会見を行う。	
7月7日	JSCによる建築関連団体に向けた新国立競技場計画に関する説明会が行われる（非公開）	
7月11日		参加と合意形成研究会キックオフシンポジウム「新国立競技場計画の持続可能性は」登壇者・浜野安宏（ライフスタイルプロデューサー）、大野秀俊（東京大学新領域創成科学研究科教授）森山高至（建築エコノミスト）鈴木知幸（元2016年東京オリンピック招致準備担当課長）三上（首都大学東京名誉教授）原科幸彦（千葉商科大学教授）森まゆみ（手わたす会）
7月12日		シンポジウム「新国立競技場とオリンピック施設計画に何が必要か？」登壇者・元倉真琴（建築家）、森まゆみ（手わたす会）、坂井文（北海道大学准教授）、上浪寛（JIA関東甲信越支部長）
7月15日		霞ヶ丘アパートを考える会 記者会見 住民と共にアンケート結果を発表
7月17日		7月7日の説明会をうけ、建築関連団体がJSCに質問書を出す
7月17日	JSCは2度目の競技場解体入札を行うが予想価格を下回る応札があったため、契約を留保し調査を行うと発表	
7月17日	欧州4カ国（オーストリア・ドイツ・スイス・スウェーデン）が招致プロセス、オリンピックの費用および規模についての提言書をIOCに提出	
7月21日		国際シンポジウム「都市と建築の美学－新国立競技場問題を契機に」美学会主催
7月23日		東京芸大教授が国立競技場の保存を求める意見書を国・JSCに提出
7月24日		手わたす会、財務省に要望書提出
7月30日		参加と合意形成研究会、中間報告会
7月31日	JSCサイトにある国立競技場建て替えに関するよくあるお問い合わせが更新される	
8月1日	JSCが渋谷区議会に第2回説明会を行う	
8月6日	7月7日に行われた建築関係団体向け説明会の概要が公開される	
9月25日	自民党無駄撲滅プロジェクトが再度新国立競技場整備問題を取り上げる 出席者：河野太郎議員、馳浩議員、橋本聖子議員、大内達史（建築士事務所協会会長）、鈴木知幸（元・2016年東京 -オリンピック招致準備担当課長、順天堂大学客員教授）、内藤廣（東京大学名誉教授・新 -国立競技場コンペ選定審査員）、中村勉（東京建築士会会長）、森山高至（建築エコノミ -スト）、和田章（東京工業大学名誉教授・新国立競技場設計アドバイザー・元日本建築学会会長）、文部科学省、JSC、ザハ・ハデイド日本事務所	
9月26日		手わたす会シンポジウム「それでも異議あり、新国立競技場－戦後最大の愚挙を考える」日本青年館
9月30日	内閣府の政府調達苦情検討委員会は30日、入札手続きに問題があったとして、入札をやり直すよう求める報告書をまとめる	
10月1日	日本建築学会主催「建築文化週間2014」のイベントとして建築夜楽学校第1夜『新国立競技場の議論から東京を考える』が田町の建築会館ホールにて開催される。登壇者：榎文彦氏・内藤廣氏・青井哲人氏・浅子佳英氏、コメンテーター：五十嵐太郎氏、モデレーター：松田達氏	
10月2日	森オリ・パラ組織委員長が無駄撲滅プロジェクトのヒアリングについて不快感を表明する	
10月9日	建築夜楽学校第2夜「オリンピック以降の東京」登壇者：市川宏雄氏・白井宏昌氏・為末大氏、コメンテーター：中島直人氏・五十嵐太郎氏、モデレーター：藤村龍至氏	
10月18日	東京オペラシティ・アートギャラリーにてザハ・ハデイド展始まる（12月23日まで）	
11月5日		
11月19日	磯崎氏、大橋氏（ザハ事務所）が外人記者クラブで会見	
12月3日	JSCは3度目となる競技場解体入札の開札を行ったものの低入札価格調査を行うと発表	
12月5日	ザハ氏による反論がdezeen誌に掲載される	
12月15日	JSC、関東建設興業が南工区を落札と発表	

	12月19日	JSC、北工区をフジムラが落札と発表。	
2015年			
	1月7日	JSC、国立霞ヶ丘陸上競技場等とりこわし工事(北工区・南工区)、工事計画変更などの追加住民説明会(四谷区民ホール)	
	1月17日		外苑キラキラウォーク開催(手わたす会)
	3月3日	競技場の解体始まる	
	3月4日	日本青年館の解体および新国立競技場建設に関する住民説明会(津田ホール)	
	3月5日		解体抗議声明発表(手わたす会)
	4月24日	日本学術会議「神宮外苑の環境と新国立競技場の調和と向上に関する提言」	
	5月11日		手わたす会勉強会「景観は誰のものか」講師東郷和彦
	5月15日		「民間会社が950億で出来る格安案を文科省などに提示。政府内に支持広がる」(スポーツ報知)
	5月16日		「オリンピック後は野球チームのフランチャイズに」(スポーツ報知)
	5月18日	下村文科相、「開閉式膜はオリンピック後につける。1万5000席は仮設で手動式に」。舛添都知事に500億の負担を要請しに行ったさいの発言。舛添知事反発、「一切聞いていない」「都民の納得が必要」都と文科省の対立厳しくなる。	
	5月19日	NHKニュース 下村文科相「五輪後の屋根の設置、開催に影響はない」	
	5月22日		朝日社説「お粗末と言うしかない。甘すぎた構想、猛省を」
	5月24日	下村案は「公約の破棄、日本の信頼損なう」(産経)	
	5月26日		「目にあまる、新国立の迷走」(日経)
	5月28日	東京都建築許可のための公聴会開催	
	5月29日	森組織委員長「どっちもどっち。知事の資格ない」	楨グループ 低いキールアーチがコストを押し上げ技術的な無理も生むとして中止を進言。観客席だけに庇がかかるシンプルなものを作る。
	5月31日	下村文科相「開閉式屋根がなくても五輪には差し支えない。いままで騒音公害のためコンサートが年に1、2回しか開けなかった」フジテレビ。(しかし「コンサートを年間10回やれば黒字になる」は誤り)	
	6月4日		当会、舛添都知事宛、500億の都税出費について四季の庭や明治公園の土地所有について、都計審の規制緩和についてなど要望と質問状を提出。
	6月5日		楨文彦氏、事務所で記者会見「キールアーチをやめ、シンプルで洗練された競技場を。42ヶ月でできる。維持費も70億でなく26億程度」
	6月11日	朝日新聞報道、下村文科相「明確な責任者が誰なのかよくわからないまま来てしまった」舛添知事「都民の生命と財産を守るのが第一の仕事」	
	6月12日	森喜朗オリパラ組織委員会委員長「それぞれ自覚してくれないと」「3、4000億かかっても立派なものを」	
	6月16日		手わたす会記者会見「新国立競技場現行案に対する緊急市民提言」勉強会2「真国立競技場へ」講師 森山高至
	6月17日	自民党無駄撲滅チーム、楨文彦氏を招請、意見を聞く。JSC、文科省などの当事者も参加。	
	6月18日		楨文彦氏、下村文科相と会談。「謙虚に耳を傾ける」
	6月22日		霞ヶ丘アパート住民による記者会見「計画を見直し、住民の声に耳を傾けよ。」
	6月24日	政府「現行デザイン案でゼネコンと契約」「アーチを維持、総工費2520億円。2014年6月時点より900億円増」このほか、先送りする開閉式屋根を付ければ総工費2820億(予定)に膨らむ。	
	6月29日	都の建築審査会、新国立の用途許可に同意。本来なら第二種中高層住居専用地域で大規模スタジアムは建たない。委員より「市民の意見を吸い上げよ」	
	6月30日	下村文科相、「予定よりやはり高い。国民に協力してもらおう工夫を」とネーミングライツや民間からの寄付を募る方針	
	7月1日	日本経済新聞 「都知事、有識者会議で負担根拠聞く 新国立競技場」	
	7月5日		読売新聞調査、81パーセントが「計画を見直すべき」毎日新聞 「新国立競技場どうする」池上彰さん 「過去の日本の悪弊の全てを体現する新国立競技場の建設計画」
	7月6日		朝日「新国立競技場―見切り発車は禍根残す」「議論がつくされていない」手わたす会勉強会3「新国立競技場は、ほんとうに使えるものになるのか？」講師 鈴木知幸
	7月7日	JSC有識者会議開く。	